

課題一 「ハンカチ」

血まみれハンカチ

人物

高橋泉（29）「セキララ」コンピ芸人

関琥太郎（29）高橋の相手

劇場スタッフ

仲田海（34）バー・キツツキ従業員

野々村光（30）高橋の大学の先輩

田中一樹（26）野々村の同僚

ミク（22）「セキララ」のファン

○古本興行 喫煙所外（夕）

パテーションで区切られただけのロボロの喫煙所。辺りはクラクションや電子広告の音で騒がしい。高橋泉（29）がスマホを見ながらしゃがんでいる。黒い肩まで伸びた髪に華奢な体格。

1

Twitterで「セキララ 面白くない」とエゴサーチしている画面。

高橋「俺のネタっておもんじゃないかな：」

関琥太郎（29）が出てくる。金髪でマッシュヘア。小柄で痩せた体格。高橋が慌てて、検索履歴を削除し、スマホをポケットにしまう。

関「さっむ。これ絶対野外ライブ風邪ひく」

高橋「お前はまだ先生役やからいいけど、俺死ぬほど薄着やで」

関「いやそんな変わらんで」

高橋「ちやうねん。三角コーンってほら、東京の同期が学生ネタするからって、なんか劇場の学ラン持ってかれた」

2

関「あいつらか。TikTokで若い子に人気の」

高橋が目の前に落ちていた石を、破れたスニーカーで蹴飛ばす。

関「てかはよ、ネタ合わせせな」

高橋と関が肩を揃えて、通路を小走り。二人とも両ポケットに手を突っ込んで、猫背姿である。

3

#### ○四角公園（夜）

古びた電灯は消えかけている。電灯下に高橋、隣に関が立ち、ネタ合わせ中である。関が教師風のスーツ衣装。高橋が白シャツに黒ズボンの生徒風衣装。

関「今から学級会議を始める。残念なことに、この中に他の人のものを盗んだ犯人がいる。怒らないから、正直に名乗り出なさい。じゃあ全員、顔を伏せて」

4

高橋が下を向き、顔を伏せる。

関「まず、北川莉菜のハンカチを盗んだやつ？」  
高橋が顔を伏せたまま手を挙げる。

関 「はい、わかりました。あとで職員室に持ってきなさい」

高橋が顔をあげ、焦ったように首を横にふる。関が眉間に皺を寄せ、腕を組み首をかしげる。高橋が血だらけのハンカチをポケットから取り出す。関が驚いてよろける。

関 「あー、えつと、わかりましたー。何かがあったということだけわかりました。まあえつと、一回しまおか」

高橋が血だらけのハンカチをポケットになおす。

関 「はい、じゃあどうしようかな。とりあえず全員顔あげてみ」

高橋がセリフを話そうとする。慌てた様子の劇場スタッフが二人に駆け寄る。

劇場スタッフ 「次ですよ、出番！ 今日、トリの三角コーン伸ばすことになったので、全組5分巻きです」

高橋 「そんなん知らんて」

劇場スタッフ「急いでください！」

関と高橋は走り出し、出口に向かう。

関「クソ！ 売れたるからなー！」

関の大声が公園に響く。

○バー・キツツキ 店内（夜）

ゲームやおもちやがあり、店内は賑やか。カウンターで高橋と仲田海（34）がレモンを搾っている。仲田は背が高く、体格がいい、穏やかそうな見た目。

仲田「ライブ終わりやのに大変やな」

高橋「まあ、お金稼がないとなんで」

仲田「泉、おもしろいねんから、すぐ売れる」

苦笑いする高橋。高橋の肩を叩く仲田。

入り口の扉があきカランと音が鳴る。

野々村光（30）と田中一樹（26）が入

ってくる。二人ともスーツ姿である。

野々村「二人」

指をピースにして、立っている。

仲田「どうぞ。お好きのところ」

野々村と田中がカウンター席に座る  
高橋が軽く会釈する。高橋が野々村の  
顔を凝視する。

野々村「ハイボール2つ」

高橋は返事をしない。仲田がチラッと  
高橋を見る。

仲田「ハイボール2つ、了解です」

仲田が小声で話しかける。

仲田「どうしたん」

高橋「あー、多分ちよつとあれな先輩で」

軽く三度頷く仲田。仲田が完成したハ  
イボール野々村と高橋の席におく。

仲田「お待たせしました」

野々村「ありがとう」

野々村と田中が乾杯し、ハイボールを  
飲む。入り口の扉があきカランと音が  
鳴る。ミク(22)が入店。金髪小柄で可  
愛らしい容姿。野々村の隣に座る。

ミク「高橋さん、こんばんは。ライブお疲れ  
様でした。めっちゃ、面白かったです！」

興奮しニコニコしているミク。

高橋が、手をとめてミクを見る。

高橋「おー、ミクちゃん。ありがとう」

ミク「今日も笑わせてもらいました！」

高橋「いつもありがとう」

ミク「でも、なんかネタ、ちよつと変わった  
っていうか？ アレンジ的な感じですか？」

高橋「あー。三角コーン出てたから、ちよつ  
と短くしてん、あのハンカチのネタ」

野々村が高橋の顔を見つめる。

野々村「高橋って、え、あの高橋泉？」

ミクが野々村に視線を向ける。高橋、  
嫌そうに苦笑い。

高橋「あー、そうっすね。はい」

仲田が心配そうに高橋を横目に見る。

野々村「俺、野々村光。ほらあのサークルの！」

高橋「あー、野々村さん、お久しぶりです」

高橋は作業する手を止めない。野々村  
は興奮し、大声になる。

野々村「えっと今30だから、10年ぶりと  
かじゃね。やばー、懐かしい。てかさ！ 泉、  
まだ芸人やってんだな」

高橋「あー、まあ」

ミクが高橋と野々村を交互に見て、様  
子を伺っている。高橋は一度も手を止  
めず、野々村と視線を合わせない。

ミク「高橋さん、私ジントニックで」

高橋が手を止めて、ミクに微笑む。

高橋「あ、オツケー」

仲田が野々村に話しかける。

仲田「じゃあ、野々村さんは慶丘のサークル  
で泉とお笑いしてたってことすか？」

野々村「そうそう、いやあでも、まだ芸人し  
てるなんて思ってなかったわ」

田中「野々村さん、お笑いとかやってたんで  
すね。僕はそっちにびっくりです」

野々村「いや、やってたついても所詮サ  
ークルだから。才能ある奴が1、2人いて、  
それ以外はみんなお遊びみたいなもん」

ミクが野々村を睨む。野々村は視線に  
気づかず、ハイボールを飲みほす。

野々村「泉、同じの！」

野々村が空のグラスを高橋に突き出す。

高橋が無言でグラスを受け取る。続け  
てジントニックをミクに出す。

高橋「ミクちゃんお待たせ」

ミクが何かいいたげに高橋の方を見  
る。高橋はミクに微笑む。

高橋「ははは、そうなんすよ」

野々村「だよなー。だからお前がまだ芸人や  
ってるとは思わなかったわー」

田中「え、でも今ライブしてたんですよね？  
なんてコンビなんですか？」

ミク「高橋さん、今はセキララってコンビで  
す。シュールコントが人気で」

野々村がミクの方を見る。

野々村「えっ！ あの泉がシュールコントや  
ってるの？ めっちゃ観たいんだけど」

野々村が手を叩いて大笑いする。ミクが顔をしかめる。高橋は無表情。

高橋「ははは」

仲田「泉の作ったネタおもしろいですよ、芸人好きにはセキララ結構有名ですし。」

ミク「ですよね！ あのハンカチのネタなんて、わりと考察とかされてるし」

ミクが「Twitter」で「セキララ ハンカチ」とエゴサーチした画面を野々村に見せる。

高橋「いや、やめて。恥ずかしいから」

高橋がミクのスマホを隠そうとする。

野々村が無理に見ようとスマホを奪う。

その拍子にミクの飲んでいたジント

ニツクが溢れる。

ミク「あっ、冷たっ。」

ミクが慌てて立ち上がる。

野々村「うっわ。最悪」

野々村は少し濡れた自分のワイシャツの袖を、執拗に気にしている。

高橋 「ミクちゃん、大丈夫？」

高橋 がタオルをミクに渡す。

仲田 「野々村さん。大丈夫ですか？ タオル

とってきますね」

仲田 がカウンター裏へタオルを取りに行く。高橋 が咄嗟にポケットからハンカチを取り出す。コントで使用した血塗れのハンカチである。野々村が高橋 からハンカチを奪い取る。

高橋 「あつ、それ」

野々村 が濡れた袖にハンカチを当てる。徐々に袖が赤く染まる。

野々村 「おい、これどうなってんだよ」

高橋 「あ、これコントで使ったやつで」

仲田 がカウンターに帰ってきて思わず吹き出す。ミクもニヤニヤ笑っている。

高橋 「あ、これや！」

高橋 、慌ててスマホを取り出し、メモを開く。『タイトル 嫌な客』と打つ。

